

ヤマハ

空間に寄り添い、人に寄り添うYamahaのBGMシステム

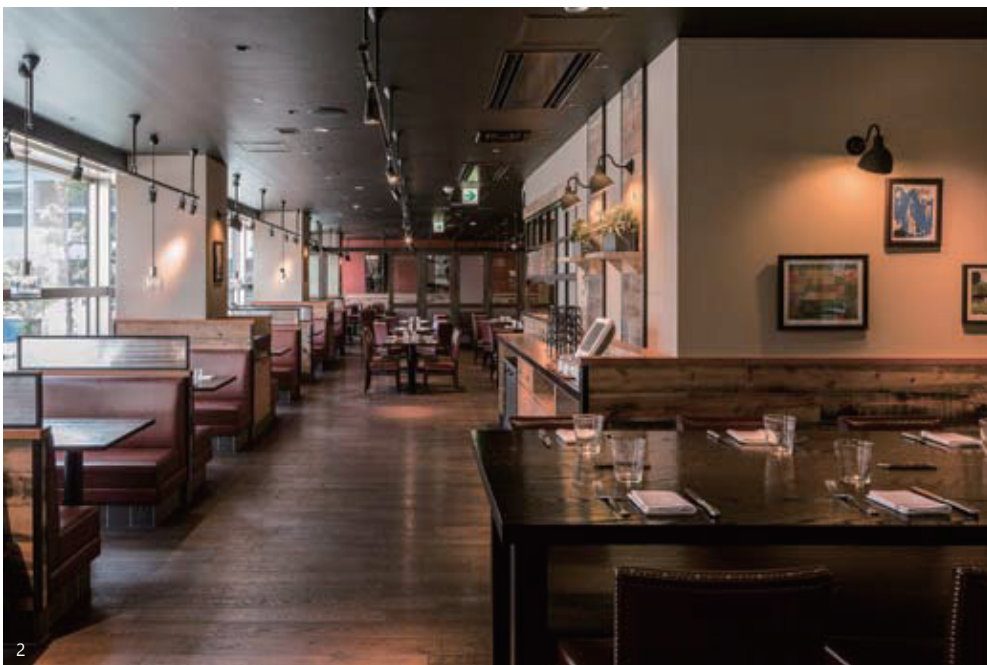
東 京のサウスゲート、品川駅に隣接するNTT データビル アレア品川内に昨年オープンした「ウルフギャング・バック PIZZA BAR アレア品川店」は、アカデミー賞公式パーティーのシェフ、ウルフギャング・バック氏がプロデュースするカジュアルダイニングである。黒、ダークブラウン、白を基調としたスタイリッシュさと、木を多用した温かな雰囲気を併せもつ店内は、ウルフギャング・バック氏のピッツァセレクションと創作料理を目当てに訪れる周辺のオフィスワーカーやファミリー層などで賑わっている。

店長の磯貝和紀氏は、「ウルフギャング・バック PIZZA BAR」にとって音は欠かせないファクターだと語る。

「本国のアメリカでは食事と一緒に音楽も楽しむのが当たり前のスタイルとなっています。週末のディナー & パータイムは活気のある曲を、平日のランチタイムにはゆったりとした曲を流すなど、時間やそのときどきのシチュエーションに合わせて変化をもたせるようにしています」同店には、Yamahaの商業空間用シーリングスピーカー「VXC6」と、サーフェスマウントスピーカー「NS-AW392 B」が導入されている。豊かな低音と心地よい音楽再生、そして広指向性を特長とする「VXC 6」が、黒い天井に溶け込むように8台設置され、約100坪、138席の店内を音ムラなくカバー。もう一方の「NS-AW392 B」はプロジェクタースクリーンの両側に1台ずつと、バーコーナーの天井に2台、計4台を設置。こちらは、結婚式の二次会や同窓会、また、スポーツ観戦などのイベント時に臨場感あふれる音響空間を演出するとともに、存在感のあるアングルキャビネットデザインにより、「ウルフギャング・バック PIZZA BAR」が音にこだわった店だということを来店客に知らしめている。

「空間や用途によって、必要な音質も変わってくるはずですが、Yamahaのスピーカーは店舗の雰囲気をつくるツールのひとつとして役立っています。うちの店ではYamahaのスピーカーがベストな選択だったと思っています。」

空間に寄り添い、人に寄り添う音。YamahaのBGMシステムは、ここ「ウルフギャング・バック PIZZA BAR」でも、そんな理想的な音環境を実現している。



1／バーコーナーに設置された「NS-AW392 B」。意匠性の高さも魅力だ。価格：22,000 円（ペア）
2／シックな天井に同化するように設置された「VXC6」。価格：46,000 円（ペア）
3／POS下に設置されたパワーアンプ（「PA2030」価格：30,000 円）とミキサー（「MG12/4FX」）。コントロールが容易なため、パーティーなどでは、幹事に操作を任せることもあるという。簡単な操作で本格的な音調整を可能にしている。